

# 「マイクロアグレッション」 8月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

今年6月、ネット上の誹謗中傷対策で侮辱罪を厳罰化し、現行の懲役や罰金刑を対象とする改正刑法が成立しました。契機は、令和2年に女子プロレスラーが交流サイトで中傷され、自死したことでした。相手を誹謗や差別書き込みを繰り返す、差別を助長・扇動するといった人権侵害が横行していることは悲しい限りです。このような意図的、意識的に相手を貶めようとする言動は一日も早く無くしたいものです。

日常生活の中では、よかれと思ってしたことが、気づかないうちに相手を不愉快にしまうことがあります。例えば「がんばれ」という言葉。この言葉に励まされ、元気をもらった経験もあると思います。しかし、精いっぱい頑張っている人にとっては「努力が足り

ない、もっとがんばれ」といった意味合いに受け取られ、努力を認めてもらえずにつらい思いをさせる言葉になることもあります。

マイクロアグレッションは、あまり聞き慣れない言葉ですが、日本語では「小さな攻撃やけなし」と呼ばれています。具体的には、無意識の偏見や差別によって、誰かを傷つけることを指します。問題点は、自分にはそのつもりはなくても、結果的に相手を傷つけてしまうことが挙げられます。誰もが一度や二度「そんなつもりじゃなかったのに」という経験があるのではないのでしょうか。自分にとっては何気ない一言であっても、相手にはストレスを与えているのかもしれない。反対の場合もあると思います。

人権問題は、人と人との間に生まれるもので、身近な日々の行いが人

権を尊重する社会の実現につながっていくのだと思います。これを機会に自身の日頃の言動を振り返ることが大切です。

